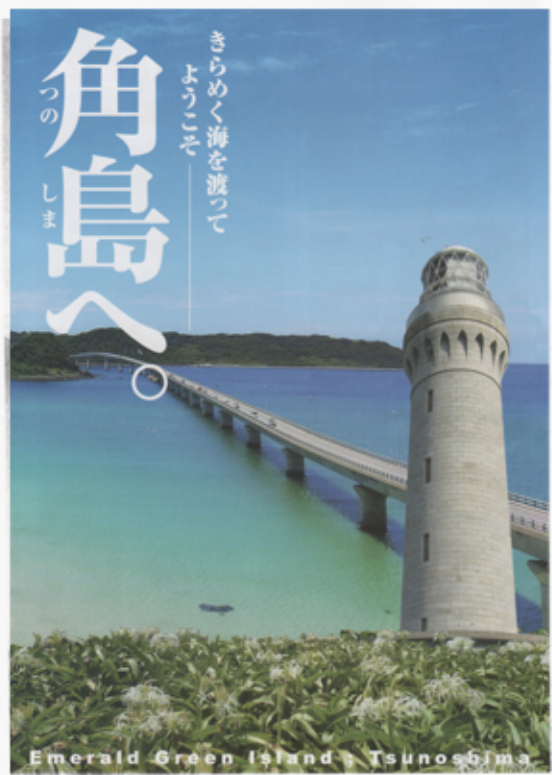




角島大橋

北浦家族旅行②

全長千七百八十餘の角島大橋。本州の最西端、日本海に浮かぶ下関市豊北町の角島が本州と陸続きになったのは十六年前の平成十二年のことである。その陰で今や山口県の人気観光スポットとして脚光を浴びている。



角島へ

きらめく海を渡って

角島の観光パンフレット

Emerald Green Island Tsunosima

ので、灯台は角島の最西端にあり、大橋はもちろん見えない。

角島灯台も今では角島観光の一翼を担っている。明治九年に日本海側では初めての洋式灯台として建造された。総御影石造りで、高さは二十九・六尺もあり、百五段のらせん階段を登れば上の踊り場から日本海が一望できる。

さて本題の角島大橋、以前、観光バスツアーで一度訪れたことがあるが、今回の自家用車での旅で初めて気付いたことがある。それは

本州と角島の間に鳩島という小島があることだ。角島大橋はこの鳩島を避けるように迂回して迂回して建設されている。

大橋は二十八の橋脚の上に架けられている。瀬戸大橋のことを思い出す。瀬戸大橋は途中の島を結んで本州と四国が陸続きになった。もちろん、角島大橋とは比較にならない規模だが、角島大橋も途中の鳩島を結ぶルートも検討されたという。しかし角島は北長門海岸国定公園の一部、なるべく自然環境を壊さないようにするため、勢の観光小島ではあるが鳩島を客が押し寄せることにつながり、島の自然環境を破壊している一面があるように思えた点だ。

戦後の高度経済成長期は経済を最優先に土木建設工事が進められ、自然環境を守るとは角島に限ったことではないが、美しい自然があった。初めてスイスに旅した時、まるで絵葉書のような風景に驚いたことを思い出す。当時日本ではコンクリートむき出しでも余り気にもとめなかった。角島大橋の通行料は無料だが、これも大勢

美しい自然環境に配慮されて建設された。しかし、少し気にならなかったのは、その建設された橋の完成が、結果として大勢の観光客が押し寄せることにつながり、島の自然環境を破壊している一面があるように思えた点だ。



小島を迂回して建設された大橋

橋は美しい自然環境を破壊するために建設された訳ではない。これは角島に限ったことではないが、美しい自然があった。初めてスイスに旅した時、まるで絵葉書のような風景に驚いたことを思い出す。当時日本ではコンクリートむき出しでも余り気にもとめなかった。角島大橋の通行料は無料だが、これも大勢